－所蔵作品紹介－

デザイン：横田　哲郎　YOKOTA Tetsuro
制　　作：株式会社インテリアナス

シープ・チェア

作品データはこちら

当館では今年度、旭川家具工業協同組合に所属する家具メーカー４社から、計５点の家具を寄贈していただいた。これらは、開館30周年を記念して開催された「天と地と人と 道北の美術コレクション選」（2012（平成24）年11月17［土］～2013（平成25）年１月14日［月］）、ならびに「木の造形100選」（2013（平成25）年１月22日［火］～４月７日［日］）に出品され、皆様には実際に座り心地をお楽しみいただいた。本稿では残念ながら５点すべてをご紹介することはできないが、この中から１点をご紹介する。

何とも不思議なシルエットの椅子である。何に見えるだろうか。タイトル「シープ・チェア」からもわかるように、本作は羊のフォルムをイメージしてデザインされている。後ろ脚から肘掛け、背もたれにかけて続く滑らかな曲線は、見る角度によって多彩な表情を生み出し、座るという機能がまず重視されている椅子である一方で、造形的な魅力に溢れた作品だ。座ってみると、身体が後ろから包み込まれ、ゆったりと落ち着いた時間が流れていく事が実感される。

本作のデザインを手がけたのは横田哲郎。制作したのは旭川の隣町、東川町の家具メーカー、株式会社インテリアナス。

横田は1969（昭和44）年東京都生まれ。東京藝術大学デザイン科を卒業後、木工を学び、家具職人として修行を積む。その後、設計事務所や家具メーカーでデザインの仕事を経て、2006（平成18）年に独立し、デザイナーとして活動している。

一方、株式会社インテリアナスは1979年那須家具工芸有限会社として創立（1991年社名を株式会社インテリアナスとする）、ホテル用家具や住宅用オーダー家具、図書館家具など、幅広く木工製品を手がけている。同社がつくった品質の高い製品を見て、全国から職人志望の若者が集まってくるそうだ。

旭川では1990（平成２）年から３年に１度、国際家具デザインフェア旭川（IFDA）という家具デザインのコンペが開催されている。国内外で活躍するデザイナー競い合うハイレベルな大会で、ヨーロッパの家具関係者にもよく知られている。本作はIFDA2008において横田がブロンズリーフ賞を受賞し、それをインテリアナスが2011(平成23)年に商品化したものだ。

座面部は削り出しによって、後ろ脚、肘掛け、そして背もたれは、成型合板によって形作られている。デザインをもとに構造を設計し、商品化するまでに３年の月日を要した。

優美なデザインと、それを実現するための丹念な作業の積み重ねによって生まれた本作。その流麗な曲線、滑らかな表面からは、何とも言えない静謐な雰囲気が醸し出される。

当館では本作を含め今回寄贈された作品について今後も皆様に触れたり、座ったりして楽しんでいただく機会を提供していこうと考えている。作品の魅力を、ぜひ肌で感じてみてほしい。

旭川美術館だより「氷華」No.55（2013.３発行）「収蔵作品から」より